

分校だより

卒業式特別号

さよならぐらいで出会は消えない
いつだって心は一緒だ
離れていても想っているから
笑顔と涙で描きあった日々は
いつまでも心の居場所だ
君が今日一人で踏み出す一歩は
僕らの一歩だ



地域と共に歩む
大曲農業高等学校太田分校
TEL 0187 (88) 1311
FAX 0187 (86) 9035

●三月三日(金)、卒業証書授与式を午後から執り行いました。今年は同窓会、卒業学年のPTA役員と在校生も参加し、できるだけ今までの思い出に近しい式典で卒業生を送り出すことができました。午前には、同窓会入会式と授賞式も行いました。卒業生が笑顔で校舎をあとにする姿を見て「今年も無事に卒業式を実施することができて良かった」という思いでした。
がんばれ！第46期卒業生たち。

思い出を胸に、
新たな世界へ！



第46期卒業生「なないろ学年」新たな旅立ち



同窓会入会式
授賞式
3年間の頑張りが報われた瞬間です

卒業証書授与式



（送 辞）

肌寒い日がつづいておりませんが、教室の窓から差し込む心地よい光にも春の訪れを感じようになつて参りました。本日、大曲農業高等学校太田分校を卒業される三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様は、今、さまざまな気持ちのなかで高校生活の三年間に思いをめぐらせていることと思います。私たちが皆様に会ったのは、二年前の春でした。先輩方が私たちを暖かく迎え入れてくださったおかげで、高校生活への不安な気持ちが一転し、楽しみへと変わったことを今でも覚えております。



新型コロナウイルスが確認されて三年が経過しましたが、太田分校の多くの行事も、新しい生活様式のなかで、さまざまな工夫をこらして開催することができました。そのようなかで、先輩方が臨機応変に対応してくださったおかげです。田植え競技会、運動会や球技大会、グラウンド・ゴルフ大会、全校民謡発表会などの各行事を無事成功することができました。その中で一番心に残っている行事は、球技大会です。アナウンスや審判など手が回らない場面が多く、自分たちでは運営をうまく進められませんでした。そんななか、先輩方は声を掛け合いスムーズに進めていて、ほんとうに助けていただきました。他にも学校生活や部活動などのさまざまなところで力を貸していただきました。ありがとうございます。

このように先輩方は常に私たちを導いてくださいました。学校生活のあらゆる場面、常に目標となるような大きな存在でした。まさに、質実剛健、実践躬行、人格陶冶、勤労愛農を体現したような先輩方の姿からたくさんのご教訓を学ばせていただきました。そんな皆様がこの太田分校を旅立っていくと思うと不安と寂しさがこみ上げてきます。これから皆様は、それぞれの思い描く夢に向かって歩んでいきます。皆様がこれまで太田分校で仲間と笑い合った、時にはぶつかりながら積み重ねてきた経験は、これから進むべき道を照らし出してくれるような財産になっているに違いありません。授業や実習を通して先生方が教えてくださったこと、これまでに身につけた知識や技術は社会に出てきても先輩方の背中を押してくれるはずで、どんなに辛いことがあっても、諦めず、笑顔で頑張ってください。私たちが在校生は先輩方が築き上げてきた伝統を引き継ぎ、さらに発展させていきます。

最後になりましたが、皆様のご健康と新たな世界での活躍をお祈りし、送辞とさせていただきます。

令和五年三月三日
在校生代表 藤原 大河

（答 辞）

春まだ浅く、風にも冷たさが残りますが、日差しは日に日にやわらかくなり、確実に春が近づいていることが感じられるようになってきました。本日は、私たちのためにこのような素晴らしい式を挙げていただき、ありがとうございます。卒業生を代表し御礼申し上げます。コロナ禍に加えインフルエンザが流行しつつあるこの時期ではありますが、三年生十三名が無事に卒業式を迎えることが出来ましたこと、とても嬉しく思います。

太田分校で過ごした三年間は、あつという間に過ぎ去っていききました。長いようで短かった時間の中には様々な思い出が詰まっています。三年前の四月、体育館横の桜が咲き色とりどりの景色の中、ここの太田分校の校門をくぐりました。新しい友達との出会い。新しい学校や先生方、先輩方との出会いに心を躍らせながらも不安で胸がいっぱいだったあの日のことを今でも覚えております。

高校に入學し初めてのことは、入学当初教室は何か張り詰めた空気があり静まり返っていました。しかしそれは、ほんの数日のこと。クラスみんなが打ち解けはじめ賑やかな毎日。今日この日まで一度も元気がなく賑やかではなかった日は存在しません。二年生になり私たちが楽しみにしていた修学旅行がやってきました。しかしそれは、思い描いていたものとは違いました。なぜなら新型コロナウイルスにより県外に行くことができませんでした。私たちは中学校三年生のころから新型コロナウイルスに苦しめられてきました。思った通りにいかない学校生活でしたが、そんな中でも私たちはそれに対応し生活していくことができました。私たちの良さはとにかく元気で前向きなことだと思います。何事にもその元気で前向きな気持ちを忘れず取り組んで来ましたが。

集大成となる三年生。楽しい生活の中にも緊張感がありました。全員が進路達成のために、様々な企業や学校を見学に行き書類を書き慌ただしい日々でした。そして、無事全員が新しい道への切符を手に入れることができました。改めて太田分校で過ごした三年間でたくさん学んだことを学ぶことができ良かったと思います。全校田植え競技会を通じて農家に携わることの大変さを学ぶとともに命を頂くありがたさを感じました。運動会や球技大会を通じてクラスやチームのみんなと一丸となり一つの目標に向かって打ち込むことの楽しさを感じました。クリーンアップを通じて、地域を綺麗にするこの気持ちよさややりがいを感じました。全校民謡発表会を通じて、練習では難しさを感じることもありましたが、民謡や東今泉八幡太鼓を披露することで全校で発表することの楽しさを、音を奏することで聴く人に気持ちを伝えることができたことの素晴らしさに気づくことができました。このように太田分校でしか学べないことが、体験できないことがたくさんありました。また、太田分校でしか出会うことのできないたくさんの方のおかげで楽しく三年間を過ごし、目標であった「最高な3G」を完成させることができました。

在校生の皆様。四月からは皆さんが上級生となります。そんな皆さんに医学博士のスペンサー・ジョンソン氏著書「チーズはどこへ消えた？」から抜粋して言葉を伝えます。「人が恐れている事態は、実際は想像するほど悪くはないのだ。自分の心の中に作り上げている恐怖のほうで、現実よりずっとひどいのだ。」こう書かれています。変化を恐れるあまり自分の心の中で恐怖心だけが強くつづいていきます。しかし実際に行動に移しても想像を超える恐怖はありません。変化を恐れずたくさんの方に挑戦する気持ちを持ってください。また、自分も書かれています。「自分が変わるには、自らの愚かさをあざ笑うことだ。そうすれば見切りをつけ、前進することができるとだ。」この言葉には、自分を変える必要がある時は、今までの愚かな自分を引きずるのではなくその愚かな自分を笑って水に流すことで新たな道を見つけた前進することができるという意味が込められていると思います。自分を卑下したり責めたりするのはなく、そんな自分や気持ちを笑い飛ばし、是非新たな道を探し進んでほしいと思います。きっとそうすることで人間としての成長をすると共に太田分校をもっとより良いものになれると思います。陰ながら応援しています。

これまで私たちを見守って下さった地域の皆様、いつでも親身になり教育・サポートをしてくださった先生方。そして、私たちのことを一番近くで見守り支えて下さった家族。皆様方のサポートなしではここまでやって来ることができませんでした。心より感謝申し上げます。たくさんの方々からのお言葉や行動、学校での学びはこの先の人生に活かされていくはずです。最後になりましたが、太田分校のこれからの益々のご発展をお祈りし、答辞といたします。

令和五年三月三日
卒業生代表 津嶋杏輔



さよならぐらいで出会いは消えない
いつだって心は一緒だ
離れていても想っているから
笑顔と涙で描きあった日々は
いつまでも心の居場所だ
君が今日一人で踏み出す一歩は
僕らの一歩だ